

堺

ほうちがいじんじや 方違神社

南海高野線の堺東駅東側には、緑の木々で覆われ小山のように見える反正陵があり都会の貴重な潤いの空間を作り出している。その北に面するように方違神社があり、「ほうちがいさん」と呼ばれ市民に親しまれている。

昔この地は百舌鳥耳原又は石津原と称し、摂津住吉郡・河内丹治比郡・和泉大鳥郡の三国の境界なるゆえに、三国丘と称し、この三国の境で何処の国にも属さない、又方位の無い清地であると言う考え方に依りその境内の御土と菰の葉にて作られた粽(ちまき)は、悪い方位を祓うという信仰を以って方災除の神として広く知られるようになった。

神社の沿革は明らかではないが平治元年(1189年)関白藤原基実による皇居修理のための祈願があり社殿造営がなされたという。御祭神は八十天万魂神、素盞鳴命、三



本殿 (正面)



本殿 (妻壁部)



南側参拝道から

所在地：堺市北三国ヶ丘町 2-2-1
最寄駅：南海高野線堺東駅より徒歩東へ 5 分
TEL：072-232-1216

筒男大神、息気長足姫命の神々をお祭りしており皇室、公家、武家などから崇敬をいただけてだけでなく庶民の信仰も盛んであった。

本殿は享保7年の火災により消失したようで、明治28年の絵図には、向拝付の拝殿と両下造の幣殿、切妻造妻入の本殿が描かれており権現造の形態をしていたようである。

現在の社殿は昭和24年に和泉市の男之宇刀神社本殿を移築したもので3間社流造となっている。建立年代は明らかではないが、細部様式から享保の頃のものと思われる。

本殿の裏側に廻ると色鮮やかに装飾が施された妻飾りを見ることが出来る。これらは和泉地方から和歌山県の中世から近世初頭の本殿によく見られる特色であり、和泉地方の伝統の根強さをよく示している。

(西本朋功)